

タイトル 農事組合法人と一体となった地域農業振興の取組み
JA名 JA梨北（山梨県）

1 動機 (経緯)	・小規模な兼業農家が比較的多い当地域においては、農業を取り巻く環境の変化、農業従事者の高齢化などを起因とし、耕作放棄地の拡大が続いていました。 ・地域農業の衰退を防ぐために、担い手の創出、とりわけ一定の経営規模があり、持続的な農業経営を志する農業生産法人・農事組合法人などの新たな担い手の創出が急務となっていました。
2 概要	・平成17年5月、耕作放棄地問題や担い手不足に対応すべく、集落営農組織「長坂ファームグループ」を中心に、行政・JA梨北（以下、「JA」）・県農業協同組合中央会が協力機関となり、農事組合法人「長坂ファーム組合」が設立されました。 《当法人の主な取り組み》 作業受託事業・・・水田農作業受託 生産事業・・・水田作物、畑作物 精米所事業・・・JAの精米所施設を当法人が借受けて運営 交流事業（社会貢献事業）・・・農業・山村文化体験交流活動 地産地消事業・・・地域スーパーにおけるインショップの展開（取組終了）、地元小学校への黒米の無償提供 《JAの主なサポート》 （設立当初） 設立支援・・・行政とともに事業内容の策定作業や事務所スペースの確保等、設立準備を全面的に支援・協力 資金面での支援（農機具のリース）・・・大型田植え機、トラクター、コンバインをリース （現在） 組織運営・作物栽培指導・・・当法人の月例経営会議に出席し、組織運営を支援。また、農業の専門家としての営農指導の実施 資金面での支援（貸付実績）・・・アグリマイティーフund（H19年） アグリスーパーfund（H19, 20, 21年） 農業近代化fund（H21年）
3 成果 (効果)	作業受託・生産事業 ・経営/受託面積：120ha（設立当初） 140ha（H22年2月現在） 作業受託は全て農協からの委託となっており、高齢化の進展等による耕作放棄地の増加により、作業受託も増加傾向にあります。 ・売上：42百万円（H17年度） 59百万円（H21年度見込み） 農地集約による 作業の効率性向上、農機具等の能率的活用等の効果もあり、設立以来、黒字を確保しています。売上げも伸長しており、経営に一定の安定性を確保できています。 地産地消事業 インショップ参加農家：37名 インショップ販売品目数：約100品目（H19年実績） 現在は参加農家がインショップへ直接出品できる態勢となったため、当法人の役割を果たしたと判断し、取組みを終了しています。 JAと共同で地元小学校へ紫黒米60kgを贈呈しました。（H21年）
4 今後の 予定（課題）	米、転作物のブランド化（付加価値創造） 組合員の高齢化（若手組合員の確保） 恒常的な事業展開（通年業務（農外事業等）の確保） 《JAのサポート》 引続き資金面・営農指導やその他の活動で、地域農業の担い手である当法人の取組みを全面的にサポート

関係機関の連携
